教員名	谷川卓	所属学科	経済学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>ある事柄を哲学・倫理学の観点からアプローチする仕方について学びます。検討対象となる事柄はとくに限定されません。どんな事柄でもよいので、それを哲学・倫理学の観点から検討するやり方を学ぶことに狙いがあります。自明とも思えるような事柄にあえて注目して、それがどういうことなのかをあらためて考えてみるという姿勢が重視されます。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>基礎演習（2年後期）では、新書や文庫で読めるものを中心に、哲学・倫理学の入門的な文献を読みます。毎回担当箇所を決めて要約報告のレジュメを作成してもらい、それを利用して参加者全員で議論をします。文献の内容の理解に努めること、そしてその内容に基づいていろいろ考えてみるものが求められます。哲学・倫理学の文献を読んで議論するというところにまずは慣れることを、目的としています。</p> <p>演習I（3年）では、哲学・倫理学の古典的著作、中上級の教科書、専門書などを読みます。どのような文献を読むかは、参加者の関心などを踏まえて決定します。哲学・倫理学の文献を読むという点では2年次の基礎演習と同様ですが、いくらか難易度の上がった文献を読む予定です。3年次後期には、卒業論文のテーマ探しを始めます。</p> <p>演習II（4年）では、引き続き文献購読を行うとともに、卒業論文の執筆に取り組みます。何度か、卒論の進捗状況報告という形で研究発表してもらいます。自分で問いを定めて、それについて哲学・倫理的にアプローチし、その成果を論文としてまとめることが求められます。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>哲学・倫理学を学ぶことを通じて、物事を考えるための視点をいくつか得ることができると思います。たとえば、複数の考え方を比較検討してみること、問題とされていることがなぜ問題なのかを考えてみること、あるいはそもそもどこにどのような問題があるのかを考えることなどに、注意を向けられるようになるでしょう。どんな職業につくにせよ、ものを考えることは重要な作業になるはずですが、哲学はそのときに活かせるツールとなりえます。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <p>伊勢田哲治『哲学思考トレーニング』、ちくま新書、2005年 野矢茂樹（編）『子どもの難問』、中央公論新社、2013年 永井均『倫理とは何か』、ちくま学芸文庫、2011年</p>			
<p>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</p> <p>自分で問題を設定して、それについて考える。これは何も哲学を通してしか学べないことではありません。しかし哲学では、そのようにすることがとくに意識して求められるようにも思われます。なんでもよいので、何かあることについて考えてみたいというひとには、このゼミはその機会を提供できるかもしれません。</p>			